

9割以上に達している。一方、日本の住民は「違法放置された自動車や自転車」に最も注意が払われている。

4. 生活環境に対する評価

中国では生活環境に対して満足の意を表している住民は55%であるのに対し、日本は約80%もが生活環境に良い評価をしている。しかも、性別、年齢、居住年数等いずれの属性においても、生活環境に対する評価は同程度である。

5. 環境対策の取り組み

行政の取り組みに対する要望をみると、「公害規制」と「職住分離土地利用」に対する要望において中国側が日本より高くなっている。また、「むやみな開発の規制」、「都市インフラ整備の促進」に対する要望も大きい。一方、日本の住民は「公害規制」、「むやみな開

発規制」について行政への期待が大きい。

住民個人の取り組みについては、「行政や企業に対して施策推進を働きかける」、「身近に樹木や花を植える」に関して認識の差異がみられる。

6. 環境活動への参加意欲

両国とも約8割の住民は参加したいという意欲を示している。しかし、その積極的な参加意欲という点で中国（35.5%）が日本（18.4%）より上回っている。以上より、関心ある環境問題、快適環境の構成要素と環境の阻害要素、生活環境に関する評価、環境政策の取り組み各項目に対しての両国住民の意識比較結果は、それぞれの日常生活環境状況に反映していることがわかった。また、それらのことは住民の環境活動への参加意欲上にも表している。

中国東北地方の農業近代化について

衣 保 中（中国・吉林大学）

農業近代化とは、農業の伝統型から近代型に転化する過程をいう。その具体的な内容は次の通りである。（1）自給自足の自然経済から商品経済への転換。（2）分散的な小農経済から社会化、地域化、専門化した生産への移行。（3）農機具の半機械化と機械化。（4）農業技術の伝統経験から近代科学技術への転化。（5）農業資本主義の発生と発展などである。20世紀初頭、中国東北地方の農業発展の歴史は、基本的に以上に述べた五つの過程を示している。

1. 土地開発と封建国有地の私有化

近代、中国東北地方の農業発展の主な特色は、土地開発と封建国有土地の私有化である。土地開発は東北地方の近代農業発展の前提をなしたのであり、封建国有地の私有化は東北地方の農業資本主義の発生のため必要な条件を作り出したのである。近代の東北地方の土地開発は前例のない規模で行われた。1909年には、

東北地方の総耕地面積は1億畝を越えた。1930年には、東北地方の耕地面積は2.7億畝余り、農産物は総計1,900万トンに達した。また、国有未耕地が様々な形で譲渡されたり、各種の官荘、皇荘と八旗領地などが次第に賃貸、質入れなどの形で漢民族移民の手に転売されたりして、私有地となった。

2. 農業生産の商業化と区域化

近代、東北地方の農産物の輸出貿易は、海外市場の拡大、交通の発達、金融商業の資本の活発化につれて大いに拡大した。特に大豆三品（大豆、大豆粕、大豆油）の輸出貿易の好調によって、東北地方における農産物の商品率が急速に上がり、農業商品経済が持続的に活況となった。農産品が商品化するにつれて、東北地方の農業生産は集中化、専門化、区画化して大規模生産になる傾向が見られるようになった。すなわち、東北の北部地方は大豆を主要作物として専作化が進ん

でいった。また南部地方では、遼西の綿花、遼東の柞蚕（サクサン）、遼南の果物、内モンゴルの畜産品など、それぞれ専作化が強まっていた。

3. 農業経営の企業化および農業資本主義の発生と発展

東北地方は中国の中で農業開発企業の発生が最も早く、最も発展した地域である。東北の農業資本主義企業とは、主に土地開発会社と水田経営会社をいうが、林業、牧畜業、漁業などの各産業の中にも資本主義的性質を持つ企業が多くあった。それは多くの林業会社、牧畜会社と漁業会社などだけではなく、鶏場、牧場、繭場、蜂場、果樹園と野菜園などにも資本主義的性質を持つ企業が現れた。このような会社や農園についてその共通した特徴は、雇用経営であっても小作経営であっても、資本家が投資して始めたものであり、農業開発と利潤を目的とし、近代生産設備と技術および管理手段を取り入れ、かなり大規模の商品生産を行った点である。

4. 近代農業技術の導入と推進

清朝末期から、中国東北三省（当時の奉天省、吉林

省、黒竜江省）の政府は農業試験場などのような近代的農業実験研究機関を設けた。また、農業協同組合や農業学校などを創立し、水文観測所、苗圃、種の交換所、農産品の展示所、種畜場などのような農業機関も設置された。それらの多くの農業機関は東北地方における新品種の導入や品種の改良を押し進め、また新しい農業技術と新型の農業機械の導入、試験を推進するうえで多くの有益なことをなし、東北地方における農業技術の近代化および農業生産の発展を促進する役割を果たした。

5. 独特な東北農業近代化

東北農業の近代化は独特な道を歩んだ。すなわち、（1）全面的な開発、（2）旧制を排除する改革、（3）先進的な技術を導入する改良、（4）食糧貿易を發展する商品化、（5）企業化経営の農業資本主義の發展、（6）食糧と大豆を主とし、商品作物の生産や林業、牧畜業、漁業など様々な産業との総合的な發展である